

# みなとMIOMACHIケンチクさんぽ vol.23

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

## 神戸の地図のイメージ

いつもはためになるコラムが多いと思うのですが、今回は少し肩の力を抜いて書かせていただきます。職業柄、土地や建物を扱うために地図を見ることが多いです。施主さんから敷地の情報をいただき、地図から法規制や周辺状況のある程度把握してから現地を確認に行くというのが一般的な流れなのですが、現在ではスマホやカーナビに任せてしまい、現地調査でも事前に地図を見て経路を想定して行くということがなくなり、それどころかストリートビューという便利な機能によって実際に現地に行かなくても周辺環境が大まかにわかってしまうようになりました。それでも設計をするにあたって、法規制を守るために、周辺環境や日当たりなどの考慮するときにはじっくり地図を読み込む必要があるのです。普段から人よりは方位や地形などを気にしながら生きていくつもりです。

そこで突然ですが、みなさんがイメージする神戸の街ってどんな地図になっていますか？私は東灘区に住んでいるのでちょっと偏っているかもしれませんが、北に六甲山、南に大阪湾と人工島、東西に幹線道路と鉄道が走り、東西によこたわる六甲山を超え

る道路や鉄道が北側の街をつなぐため南北に走っているといった感じです。みなさんも坂道を下っていったらそっちが南というように北側が山で南側が海という絶対的な感覚があるのではないのでしょうか。

でも鉄道や車で東西に移動する時に元町あたりで市街地が狭くなって、キュッとまとめられてまたそこを超えると広がってくるといった感覚はありませんか。(図1)

国道が合流したり、JRと阪急がいつの間にか並走していたり、神戸高速鉄道の駅で阪神電車と阪急電車がホームで向かい合って停まっていることがあったりと。

そこで、地図をちゃんと見てみると実は図2のように南北の軸に対して街区が南西に

少し傾いていて、元町あたりで大きく湾曲して弓なりになってまた海に沿って東西の規則的な格子の街が東西に続くといったようになっています。そして、さきほどの感覚的なイメージがあった六甲山が元町あたりで南に張り出してきて山と海がとても近くなっているのもわかります。きれいに東西に広がっているというよりは少し傾いて東北東から西南西の方向につながっていて、明石海峡大橋のある舞子あたりまで続いています。実は街区が南西に傾いていて、元町あたりで大きく湾曲していることと、山と海の距離が近いことが、元町周辺が海運業で栄えて、みなと元町という言葉が使われるようになった所以となっているんです。

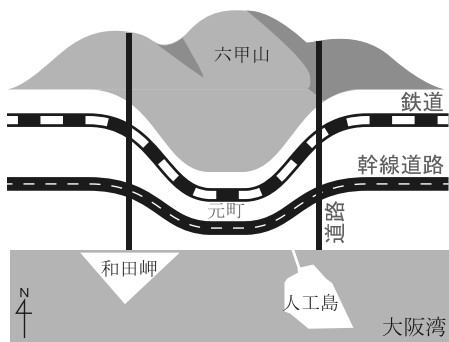


図1 わたしの神戸の地図イメージ

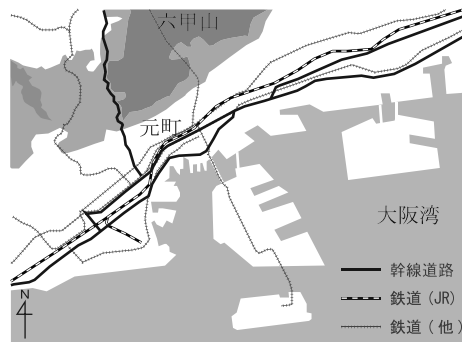


図2 実際の神戸の概略地図

## みなと元町のはじまり

平清盛が整備したという『大輪田の泊』のことは皆さんご存知かと思います。場所は現在の和田岬のあたりですが、なぜここに清盛以前の先人が港を設けたかという理由ですよ。まずは、冬になると西高東低の冬型の気圧配置による西からの強い季節風が吹き、明石海峡のあたりでは特に船の運行に大きな影響を与えます。現在でも明石海峡大橋が強風で通行止めになることがあるくらいなので、海上も強風が吹くことは想像できると思います。しかし、ちょうど和田岬あたりは弓なりになってほぼ東向きに海に面しているのでこの季節風の影響を受けにくいようになっています。正確なことはわからないのですが、こ

のあたりは平清盛によって埋め立てられたらしく、より南に陸を張り出して、海での西風の影響を受けにくくしたのではないかと想像されます。(図3)

そして、山と海との距離が近いということは図4のようになだらかな平地から続く海に比べて陸に近い距離で海底が深くなっているので大きな船も停泊させることができる深い港にすることができます。現代の造船や土木の技術レベルであれば大きな問題ではないかもしれませんが、平安時代の頃と考えると条件の良いところに港を設置することが必須となるはずなので、地理的にはこのあたりが最適だったのでしょう。そしてこの条件を活かして港が発展し、鎌倉時代以降は兵庫津として日宋貿易や日明貿易の拠点として使われ、幕末には日米修好通商条約によって開港場の一つとされ、外国人居留地が設けられ、今の旧居留地や北野町の異人館といったみ

なとまち神戸らしい街並みがつくられる礎となりました。一応、諸説ありますので、その中の一つの説として受け取ってください。

最後に余談になってしまいますが、神戸の街には図5に示すような東側の3階部分より上のあたりが斜めになっている建物が実はけっこうあります。これは神戸では街区が南北軸から少し南西に傾いているせいで法的に生まれる形状で建築家泣かせの部分でもあるのですが、こうなる条件がなければ今の神戸がなかったと思うと少しありがたみすら感じてしまうわけです。

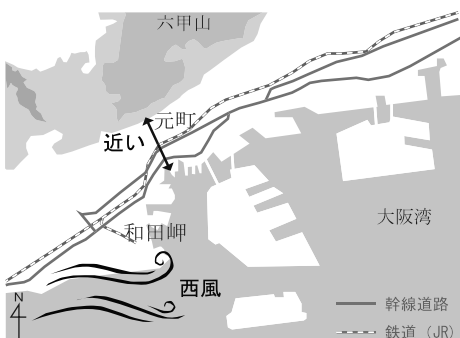


図3 和田岬の地理的条件

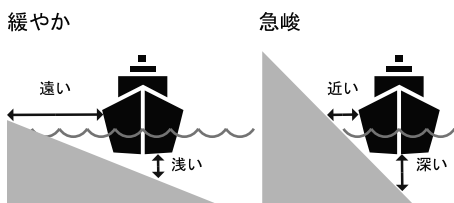


図4 船と海の関係

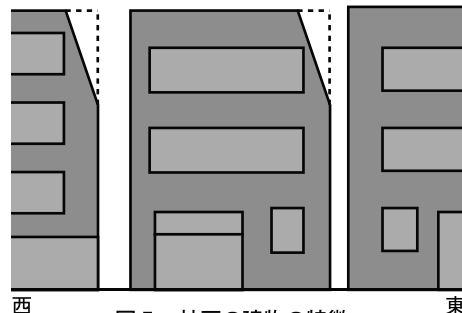


図5 神戸の建物の特徴



山崎 康弘 (やまさき やすひろ)  
 (株)シンプレックス一級建築士事務所  
 神戸・芦屋・西宮を中心に建築設計  
 をしています。